The Japanese Geotechnical Society

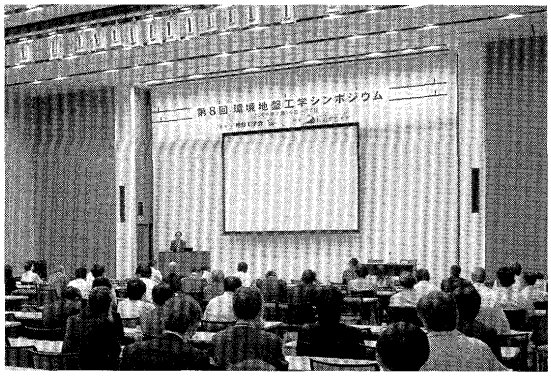
「第8回環境地盤工学シンポジウム」開催報告

Report on the 8th JGS Symposium on Environmental Geotechnics

地盤環境プロジェクトにおける環境影響評価技術の高度化と適用に関する研究委員会
地盤環境企画委員会

第8回環境地盤工学シンポジウムが2009年7月16日～17日に秋田市民交流プラザALVEにて開催された。本シンポジウムは1994年からほぼ2年に一回の頻度で地盤工学と環境問題に関わる研究成果の発表，討議の場として開催されており，今回は“地盤環境プロジェクトにおける環境影響評価技術の高度化と適用に関する研究委員会（委員長：勝見　武　京都大学）”，“地盤環境企画委員会（委員長：小峯秀雄　茨城大学）”の2委員会が開催，運営にあたった。二つの委員会の委員による査読を経て論文集に収録された論文は87編におよび，参加登録者は167名（うち，学生28名）を数えた。

プログラムは，2日間を通して開催した論文発表セッションに加えて，第1日夕方には一般公開で特別講演，ディスカッションセッションを開催し，一般市民の方にも聴講いただいた。論文発表は，「廃棄物の地盤工学的利用」，「廃棄物処分場の建設・維持管理」，「地盤中の水分・化学物質の移動とその制御」，「重金属含有岩石・土壌の対策技術」，「緑化・バイオマス利用」，「溶出特性・環境影響評価」，「地球環境問題への地盤工学の貢献」の7テーマ，12セッションにて活発な議論が行われた。気候変動やそれに伴う海面上昇といった地球環境問題に対応するための地盤工学分野からの取組み，自然由来の重金属を含む掘削土への対応やバイオマス利活用に関する研究論文の増加が今回のシンポジウムからの新しい傾向としてみられた。廃棄物の処分・有効利用といった従来から研究が進められている分野においても，材料特性や建設技術の開発といった観点に加えて，廃棄物処分場の安定化や維持管理，廃棄物の再資源化に伴う環境負荷や将来的な再々利用への配慮といった点が新たな論点となっていた。学生による質の高い研究発表やディスカッションへの参加も多くあり，次代の研究者・技術者の交流にも良い機会であったと感じられた。



写真―1　特別講演の様子

特別講演は，北海道大学大学院工学研究科　五十嵐敏文教授が「岩盤掘削ずりからの重金属類の溶出特性に基づく対策法の構築に向けて」と題して，北海道内における自然由来の重金属類の分布やその特徴，掘削ずりからの重金属類の溶出特性と評価方法を自身の近年の研究成果に基づいて示していただいた。さらに，溶出試験結果に基づいて自然由来の重金属類を含有する掘削ずりを合理的に処理・処分する考え方を紹介いただいた。

ディスカッションセッションは「廃棄物処分の地盤工学的課題」をテーマとして，佐藤研一副委員長（福岡大学）のコーディネートの下，秋田県生活環境文化部の井島辰也環境整備課長，遠藤和人委員（国立環境研究所），大嶺　聖委員（九州大学），水野克己委員（大幸工業）の4名が産官学の異なる立場からそれぞれ話題提供を行い，その後フロアを含めた総合討論を行った。廃棄物処分に関する現状や今後の廃棄物の地盤工学的利用の方向性，人材育成の重要性についてディスカッションが進められ，今後の本分野における研究・教育の方向性について限られた時間ではあったが活発に議論が行われた。

第1日のプログラム終了後には会場近くのホテルで交流会を開催し，秋田の郷土料理，地酒を囲みながら100名近くの参加者の間でディスカッション，親睦がはかられた。

なお，すべての一般論文，特別講演を収録したシンポジウム発表論文集（全494ページ）が会員特価3 000円で販売されている。希望者は地盤工学会ホームページ（http://www.jiban.or.jp/）から申し込んでいただき，多くの方々が環境地盤工学に関する研究に取り組み，議論を深めていただくきっかけにしていただければ幸いである。

最後に本シンポジウムに開催にあたっては，秋田県立大学に共催いただき，厚いご支援をいただいた。さらに，同大学システム科学技術学部　ハザリカ・ヘマンタ准教授研究室の学生諸氏，ならびに地盤工学会事務局一般事業課の皆様には運営にあたり多大なご尽力を賜りました。ここに記して謝意を表します。

（文責：乾　徹　京都大学）

（原稿受理　2009.8.10）

NII-Electronic Library Service